

中央病院の看護体制は



堰野端 展雄 (高志会)

議員 看護師数の現状と配置等の状況は。

病院事業管理者 市職員

定数条例での病院事業の職員定数は四百五名で、九月一日現在の職員数は三百九十一名となっています。うち看護師は二百六十五名で、その配置は外来三十三名、病棟百九十名、手術室十四名、看護局等八名、産休・育休十八名、休職二名となっています。産休や育休



中央病院受付

で常に二十名から二十五名程度の欠員があり、また五時間の育児短時間勤務、深夜勤務制限などで夜勤勤務ができない看護師が十名程度いますので、結果的に夜勤回数が多くなり、年休をとれない看護師が多いのが現状です。来年度までに初期研修医を含めて医師が三名ふえる予定ですが、退職者補充及び重症病床を運用するため、十八名の新規採用を予定しています。

議員 七対一看護体制の意義と現状は。

また、十対一看護体制を

どうよ(こ)から(こ)へ

病院事業管理者

現在の看護師数は七対一看護基準のぎりぎりまで推移しており、大変危うい状況です。産休、育休等の増加により基準を満たさなくなるおそれがあります。この体制を維持できなければ約二億円の収入が減ることになります。

病院事務局長 急性期病院

である当院では、七対一看護体制の導入は、患者看護師、病院経営にとって多くのメリットがあります。看護師を手厚く配置することにするため、患者には安全で質の高い医療、看護の提供となります。看護師の立場では、過重労働が十対一看護体制より緩和されます。

また、十対一看護体制より経費負担は多くなっていますが、収益として入院基本料の加算額を確保していますので、医療の質の向上、病院経営の改善の両面において七対一看護体制の維持が重要であると考えています。



江波 信貴 (高志会)

当市はバイオマスが豊富 将来に向けて積極的な取り組みを

議員 当市のバイオマス*

スタウン構想計画と、これまでの実績を問う。

企画財政部長

当該計画は、畜産農家と耕種農家の連携を一層推進し、資源循環型の農業システムの確立を目標に、農産物の飼料化、堆肥化、家畜ふん尿の液肥化、ガスエネルギー利用、製材所の残材などのバイオマス資源の利活用に向けた新たな可能性を探ることを目的としたものです。

これまでの実績は、製材所から発生する残材や木くずの燃料化の事業として、一事業者が工場で使用する熱源に製材所の廃材などを活用する取り組みをしています。また、市では、下水処理場で発生する汚泥からメタンガスを発生させ、重油のかわりにボイラーの燃料として活用しています。

議員 家畜排せつ物をエネルギーへ

家畜排せつ物のエネルギー化を具体化する考えはあるか。

農林部長

現在当市の農業では、畜産農家から発生する家畜排せつ物を堆肥舎等で堆肥化し、農地に還元する資源循環型農業がおおむね確立しています。

しかし、家畜排せつ物を処理する過程で発生するメタンガスの生産には、発電施設、ガスの貯蓄タンク、発電施設など、多額の設備費を要することから、現在市内の畜産農家での取り組み事例はありません。市としても具体化について検討はしていません。

議員 子供たちへの環境教育

市内小中学校では、環境教育の全体計画と年間計画を整備し、理科や社会等の各教科、総合的な学習時間などで計画的に環境教育を行っています。具体的には、ごみ拾いを行うクリーン活動、学校の草刈りや枝払い、奥入瀬川の水質検査、環境省職員を講師に招いての自然観察学習会など、環境保全に向けた実践的な取り組みを行っています。

議員 市内の全小中学校では、環境教育の全体計画と年間計画を整備し、理科や社会等の各教科、総合的な学習時間などで計画的に環境教育を行っています。



奥入瀬川の水質調査

*1 バイオマス：エネルギー源として再利用できる動植物から生まれた有機性の資源のこと。